

# 発信！ 新建材&工法

## 建築士の日



コストやデザインの制約といった課題解決に、建築士が提案！ 3人の建築士が技術者と共に開発・発信する新たな建材や工法を取り上げる。(10・11面に関連)

### 新建材 補強コンクリートブロック役物 (L型・T型・端部)



伊良波朝義さん(52) (南義空間設計工房)

# 型枠職人ナシで建築可能に

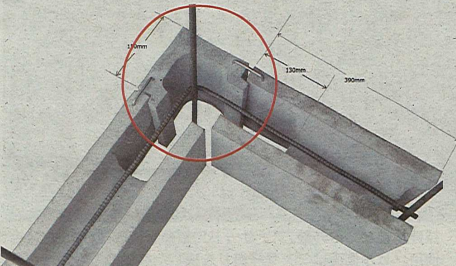
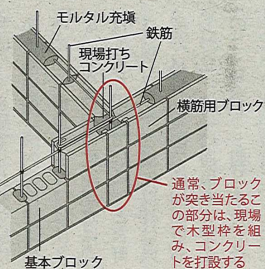
## 型枠と構造体兼ねる

補強コンクリートブロック造で住宅を建てる際、不可欠な型枠職人。その職人なしで建築を可能にしたのが、型枠と構造体を兼ねる「補強コンクリートブロック(以下補強CB)役物」だ。開発者の伊良波朝義さんは「型枠職人不足や建築費高騰の現状を打破する画期的な建材と力を入れている」。

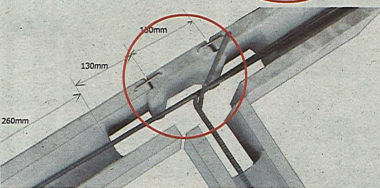
## 適切な施工法も確立

そもそもCBで家を建てる際は、補強のため壁内に鉄筋を入れる。横筋は、空洞のある基本ブロック数段ごとに横筋用ブロックを挟んで鉄筋を入れ、モルタルを充填。縦筋は、基本ブロックのジョイント部分に入れ、コンクリートを流し込んで打設する。左右下図。その際、ブロックが交差する角や壁の突きあたり、端部は、現場で木の型枠を組んでコンクリートを流し込む必要があるが、「職人がいなければ現場がストップしてしまう」状況が近年続いていた。そこで伊良波さんが大城ブロック工業と取り組んだのが、「L型、T型、端部」の開発だ。「原型となるものは内地にあったと聞き同社に探してもなかったが、現物は見つからなかった。そこで資料を基に考案することにした」。

現場がストップしてしまう状況が近年続いていた。そこで伊良波さんが大城ブロック工業と取り組んだのが、「L型、T型、端部」の開発だ。「原型となるものは内地にあったと聞き同社に探してもなかったが、現物は見つからなかった。そこで資料を基に考案することにした」。



上と右の写真赤丸部が補強コンクリートブロックL型。下がT型。型枠と構造体を兼ねる(写真提供/大城ブロック工業)



■南義空間設計工房 ☎098・888・5303  
■南大城ブロック工業 ☎098・946・8126

苦心したのは施工可能なカタチと工法を導き出すこと。「ブロックが薄いと倒れ、厚いとコンクリートの流し込みや打設がしにくく、適切な鉄筋のかぶり厚も取れない」。同社のプロジェクトチームとキヤッチボールを繰り返して検証。ステンレスの端材を再利用し固定する留め金も作った。構造的問題がないことを確認するため、原寸で建物の一部を試作。L型、T型、端部のブロックをはずり、中のコンクリートを流し込んだ。施工法も確立した。

(徳正美)